

2022年5月26日

2022年3月期 決算説明会

麻生フォームクリート株式会社

<https://www.asofoam.co.jp/>



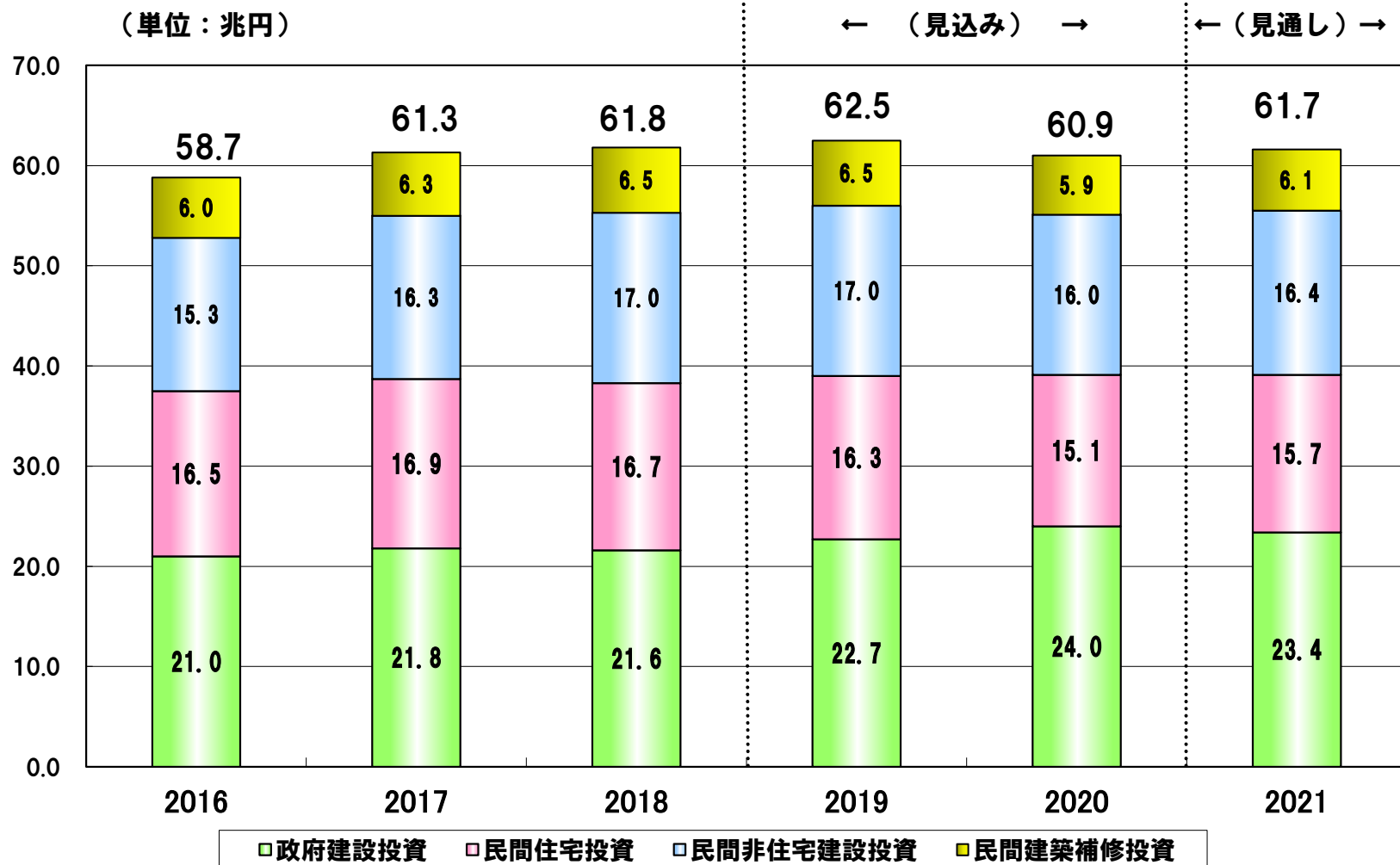
I . 2022年3月期 決算概要

2022年3月期業績ハイライト

(単位：百万円)

	18年3月期	19年3月期	20年3月期	21年3月期	22年3月期	対前期
	実績	実績	実績	実績	実績	増減額
受注高	3,880	4,365	4,139	4,091	4,134	43
売上高	3,773	4,282	4,030	4,623	3,594	△1,029
営業損益	△112	40	64	215	△73	△289
経常損益	△104	49	69	223	△65	△289
当期純損益	△141	30	39	153	△52	△205

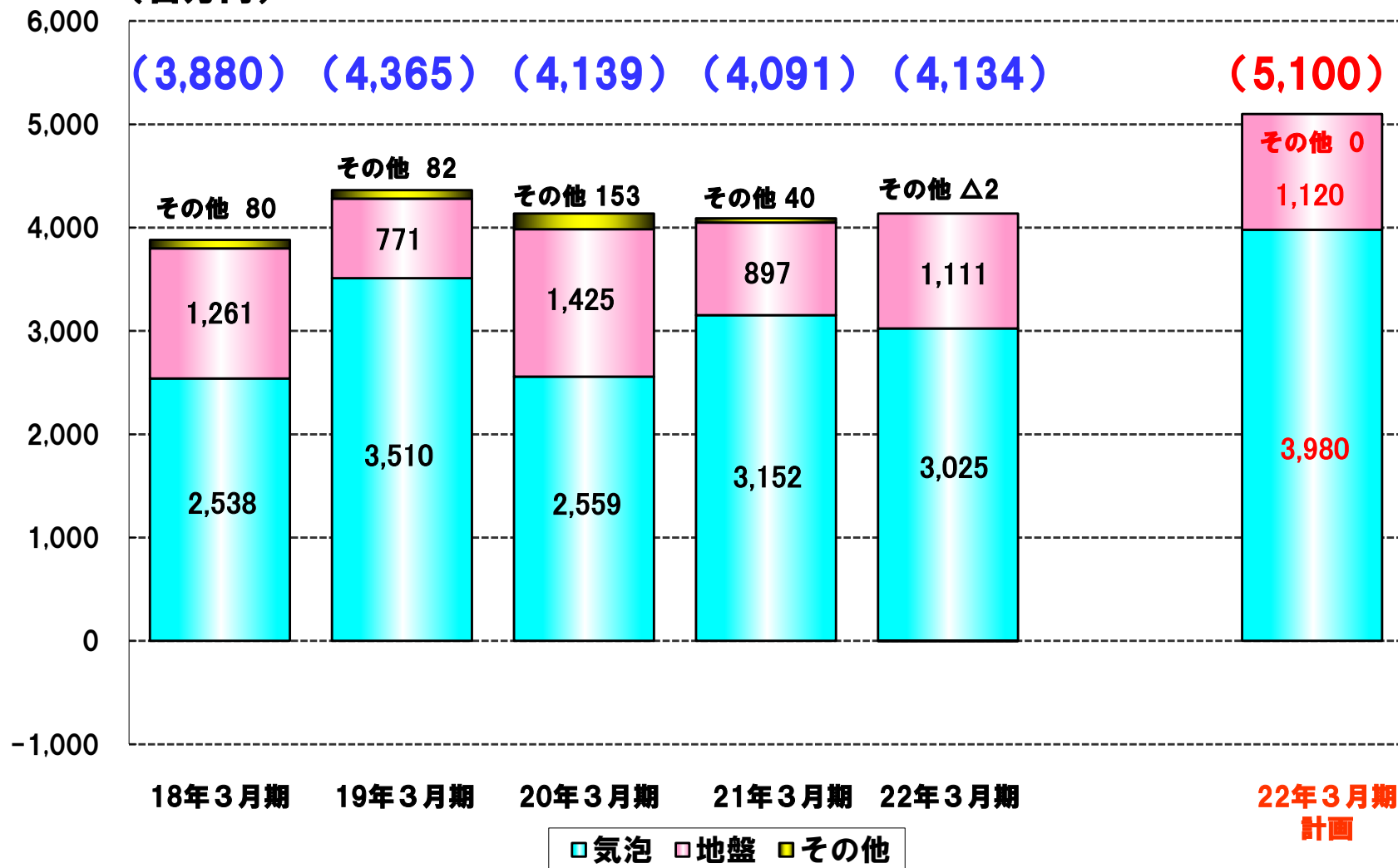
■名目建設投資の推移（年度）



参考：（財）建設経済研究所
 建設経済モデルによる建設投資
 2022年4月13日発表より

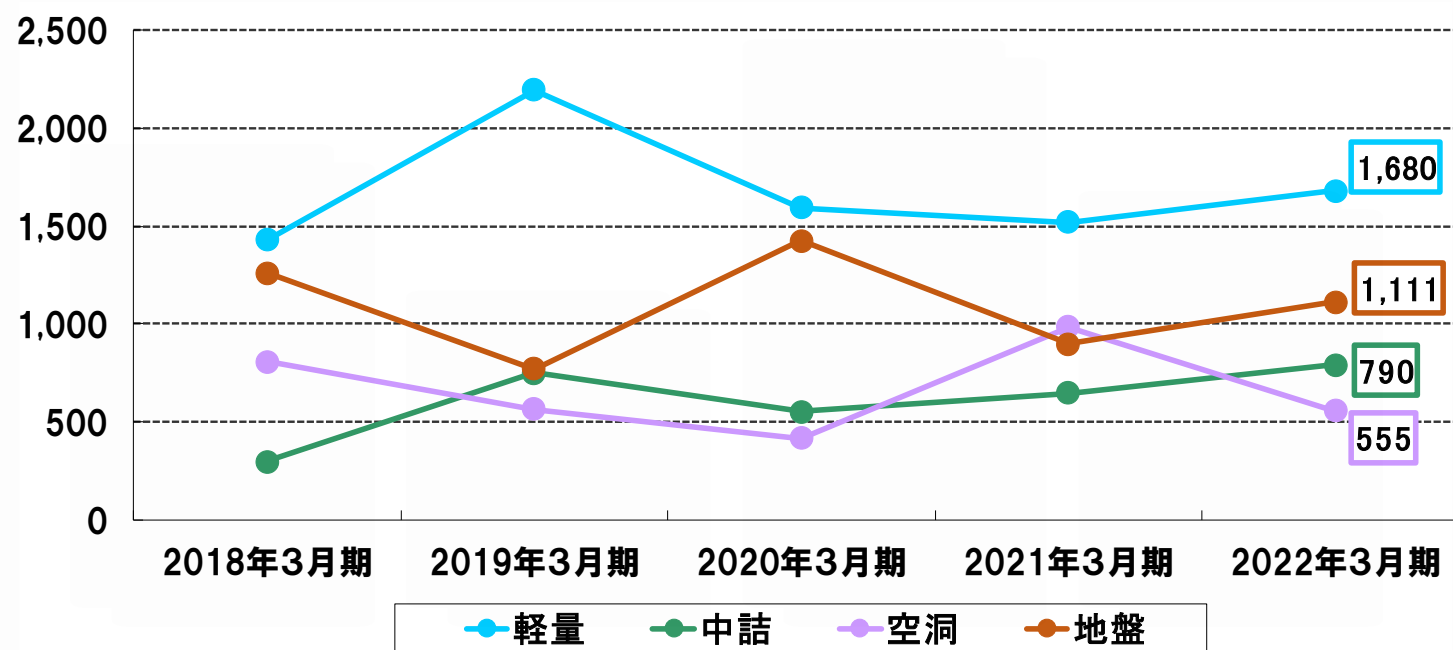
受 注 高

(百万円)

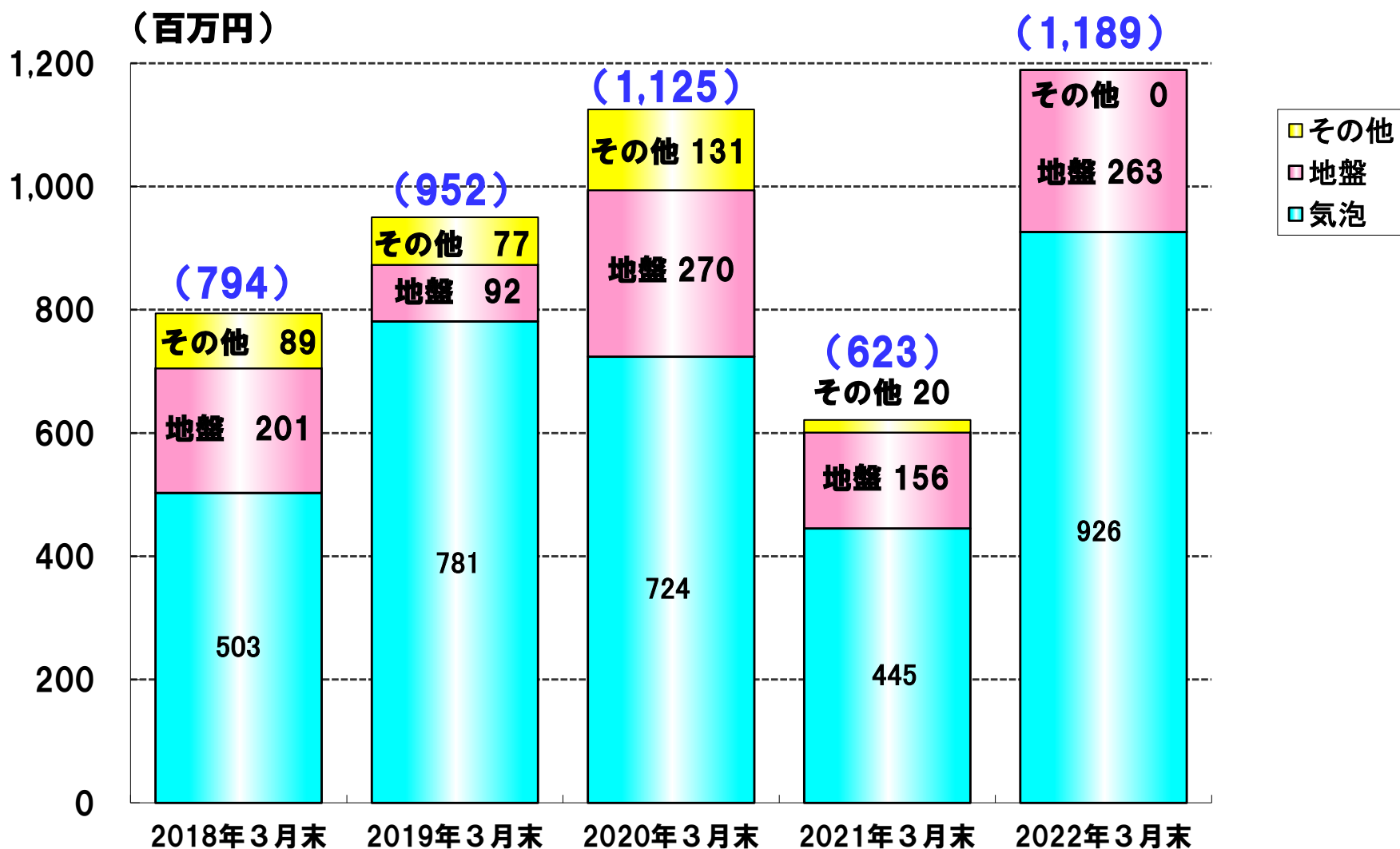


受注高推移

(百万円)

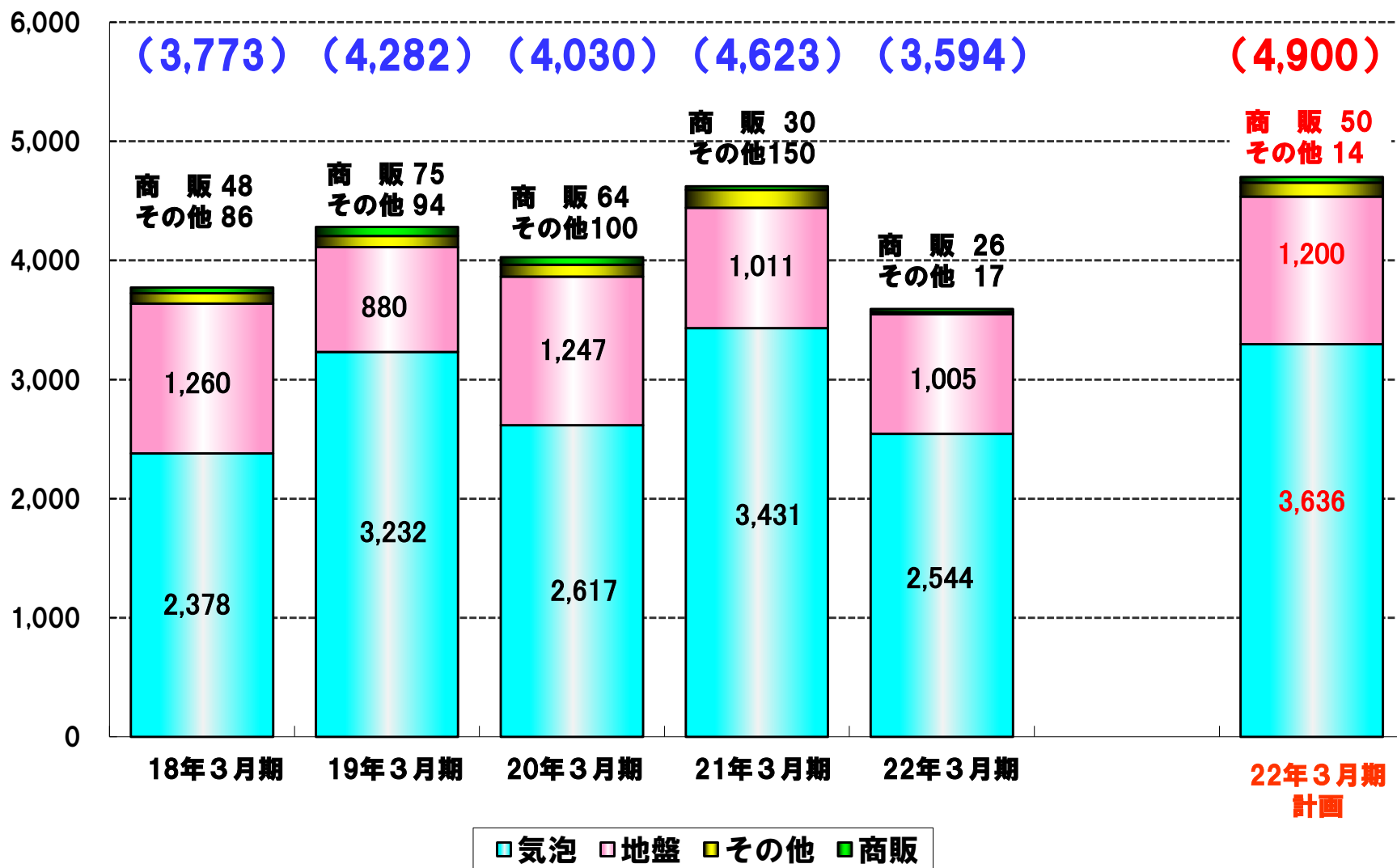


繰越工事高



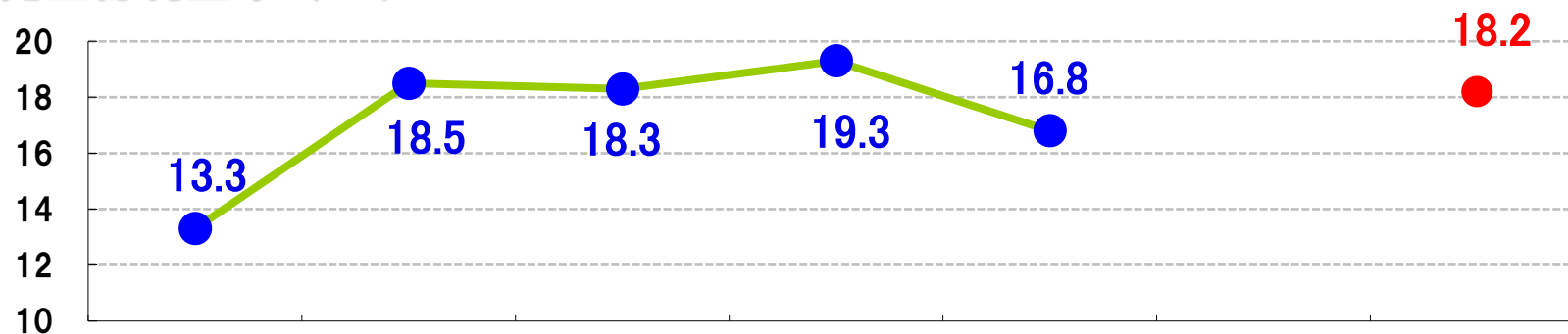
売上高

(百万円)

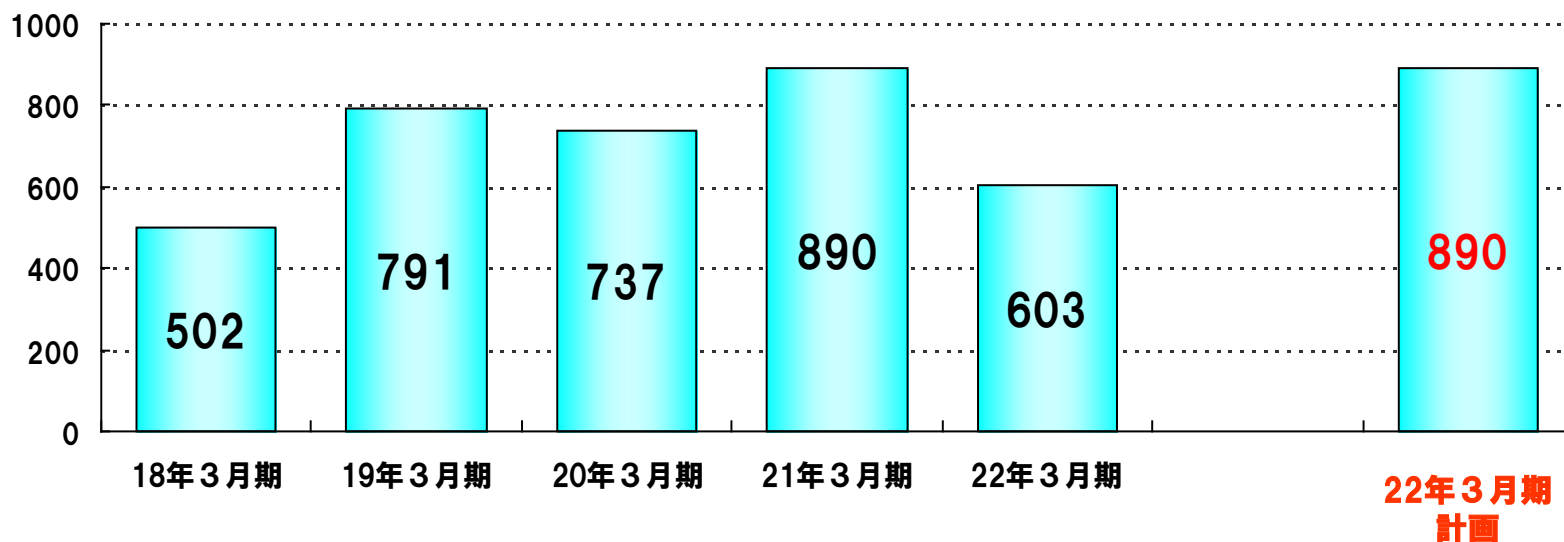


売上総利益

■売上総利益率（％）

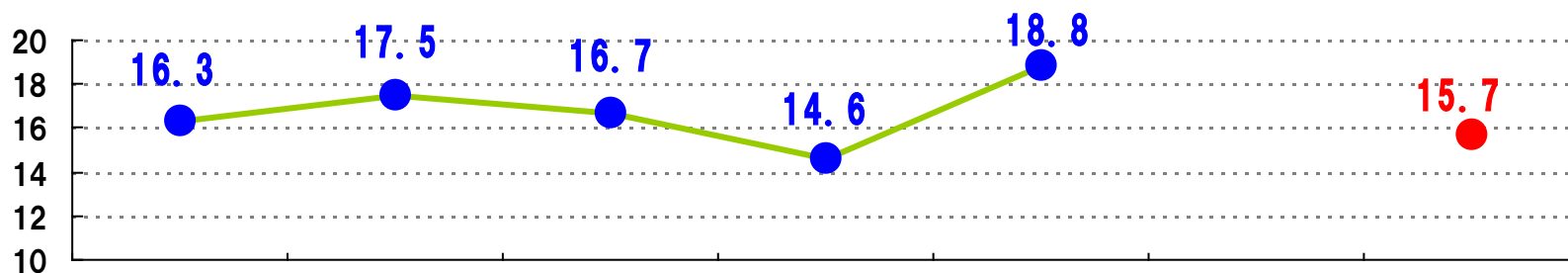


■売上総利益（百万円）

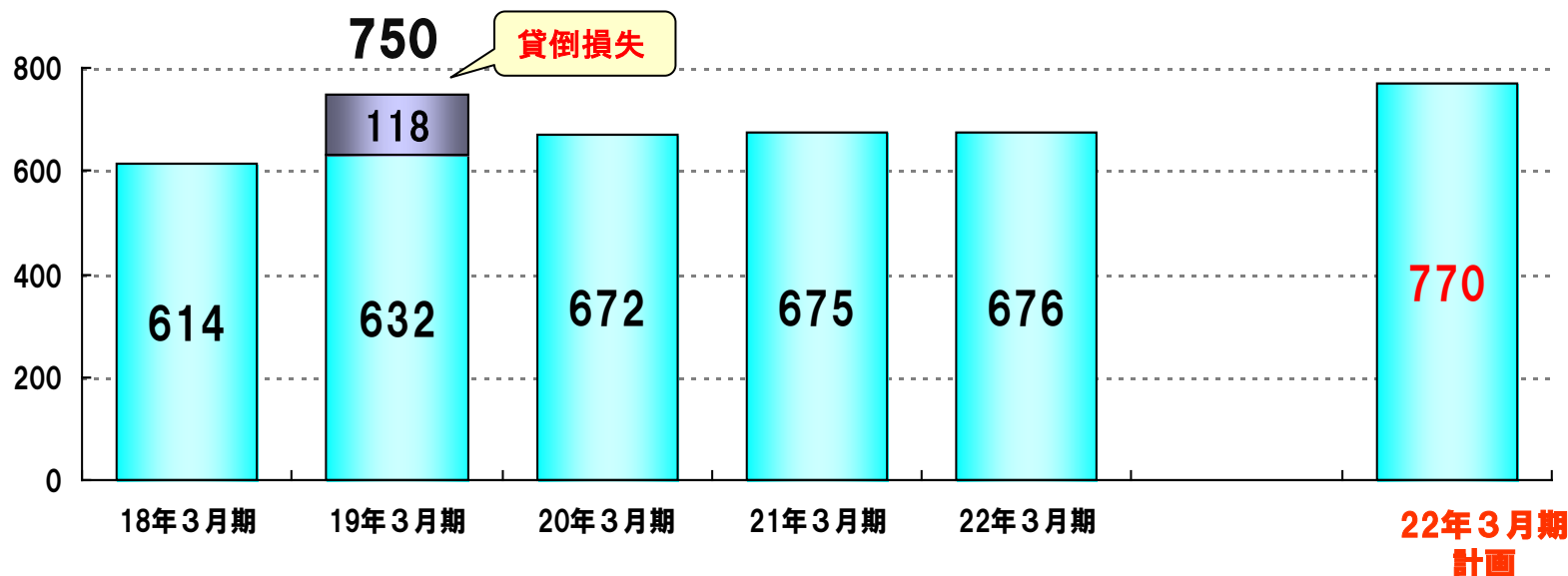


販売費及び一般管理費

■売上高販管费率（％）

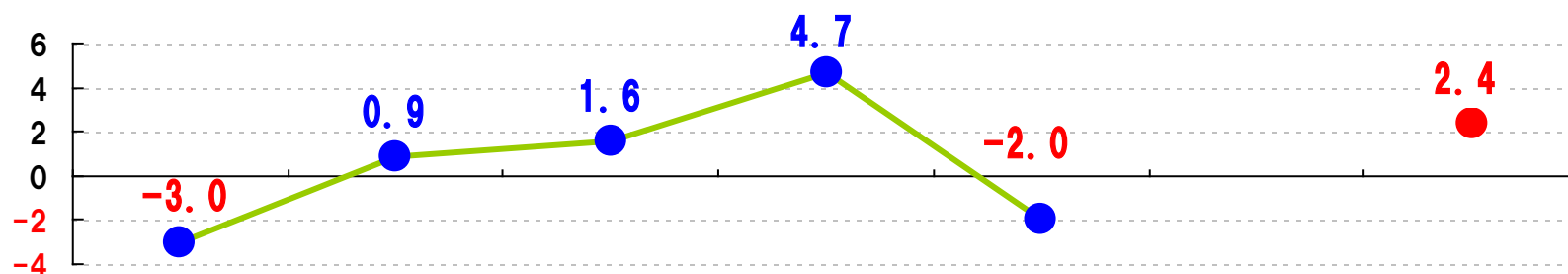


■販売費及び一般管理費（百万円）

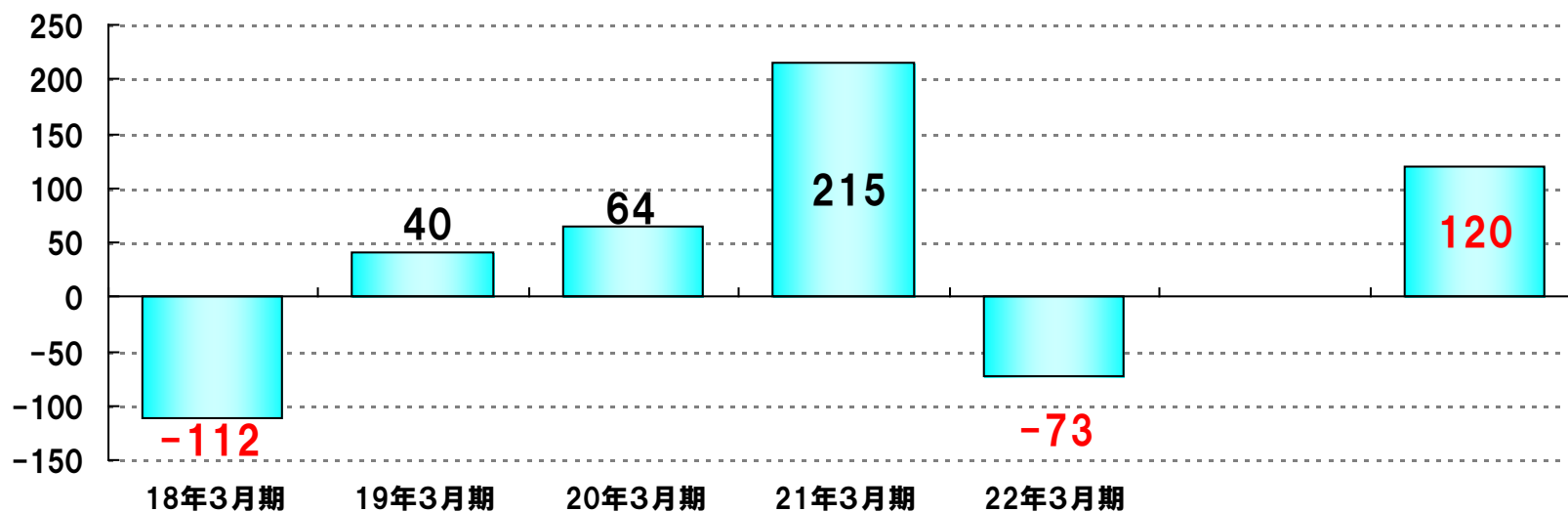


営業損益

■売上高営業利益率（％）



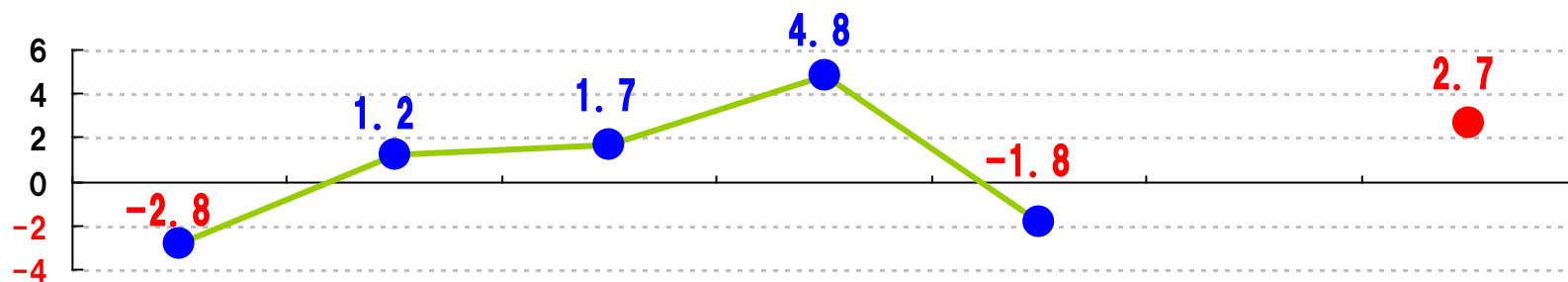
■営業利益（百万円）



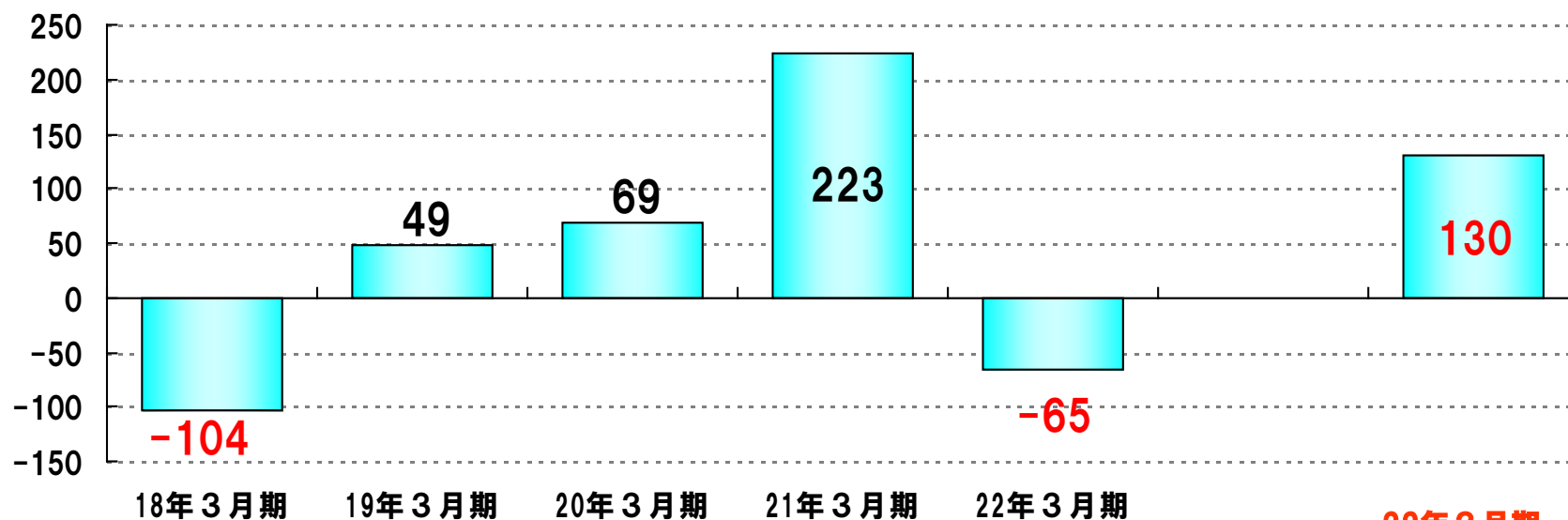
22年3月期
計画

経常損益

■売上高経常利益率（％）



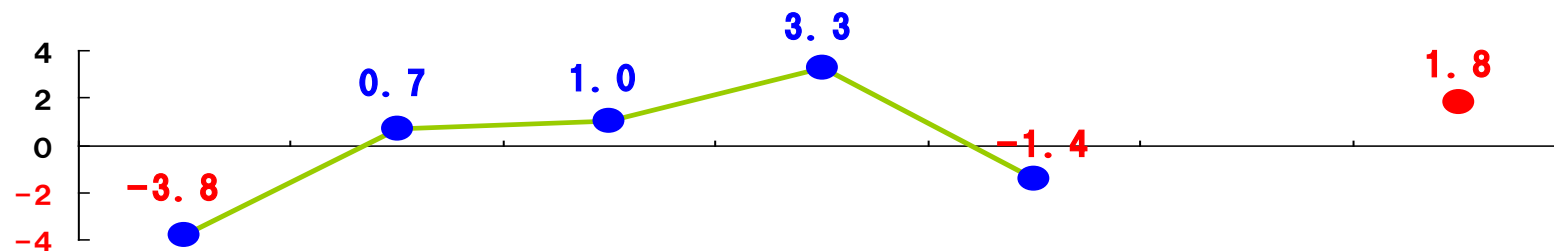
■経常利益（百万円）



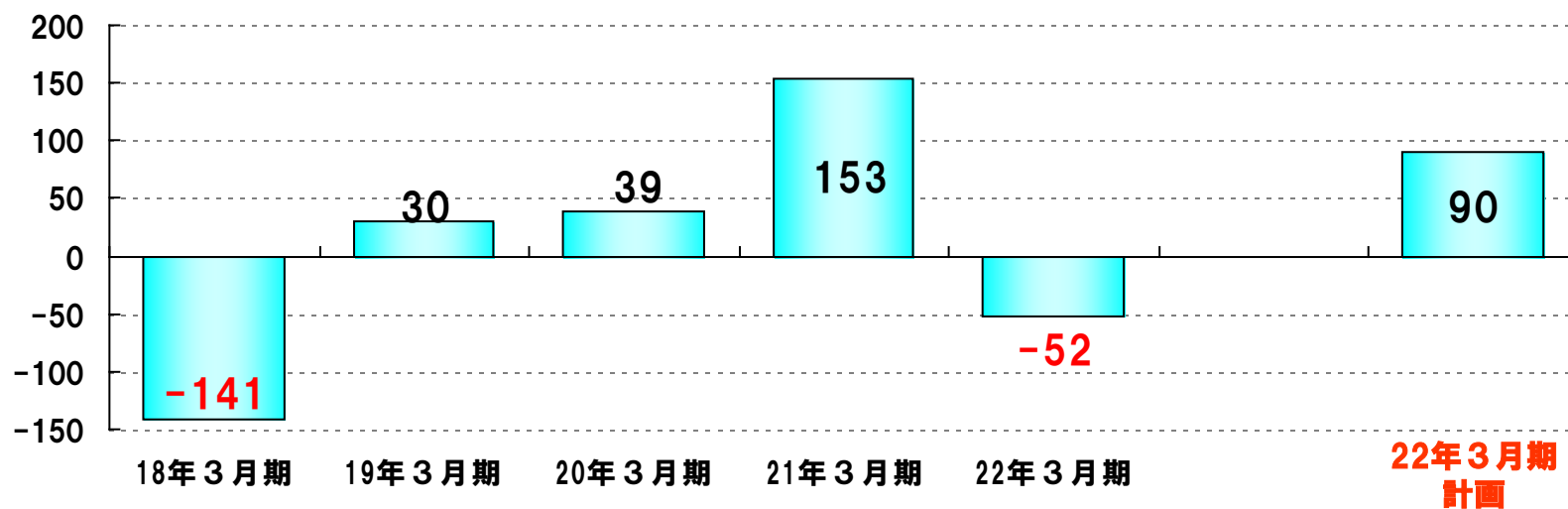
22年3月期
計画

当期純損益

■売上高当期純利益率（％）



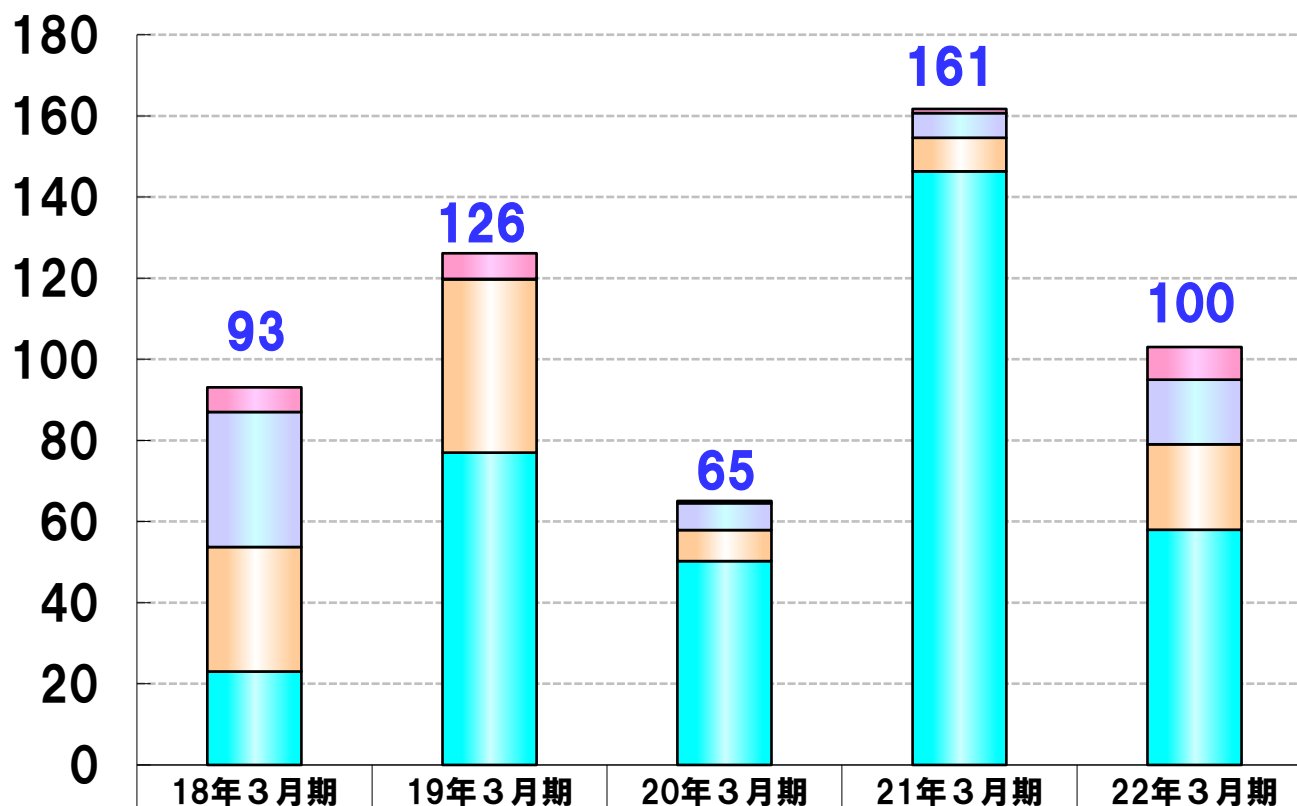
■当期純利益（百万円）



ROE	—	2.3	3.0	10.8	—
-----	---	-----	-----	------	---

設備投資

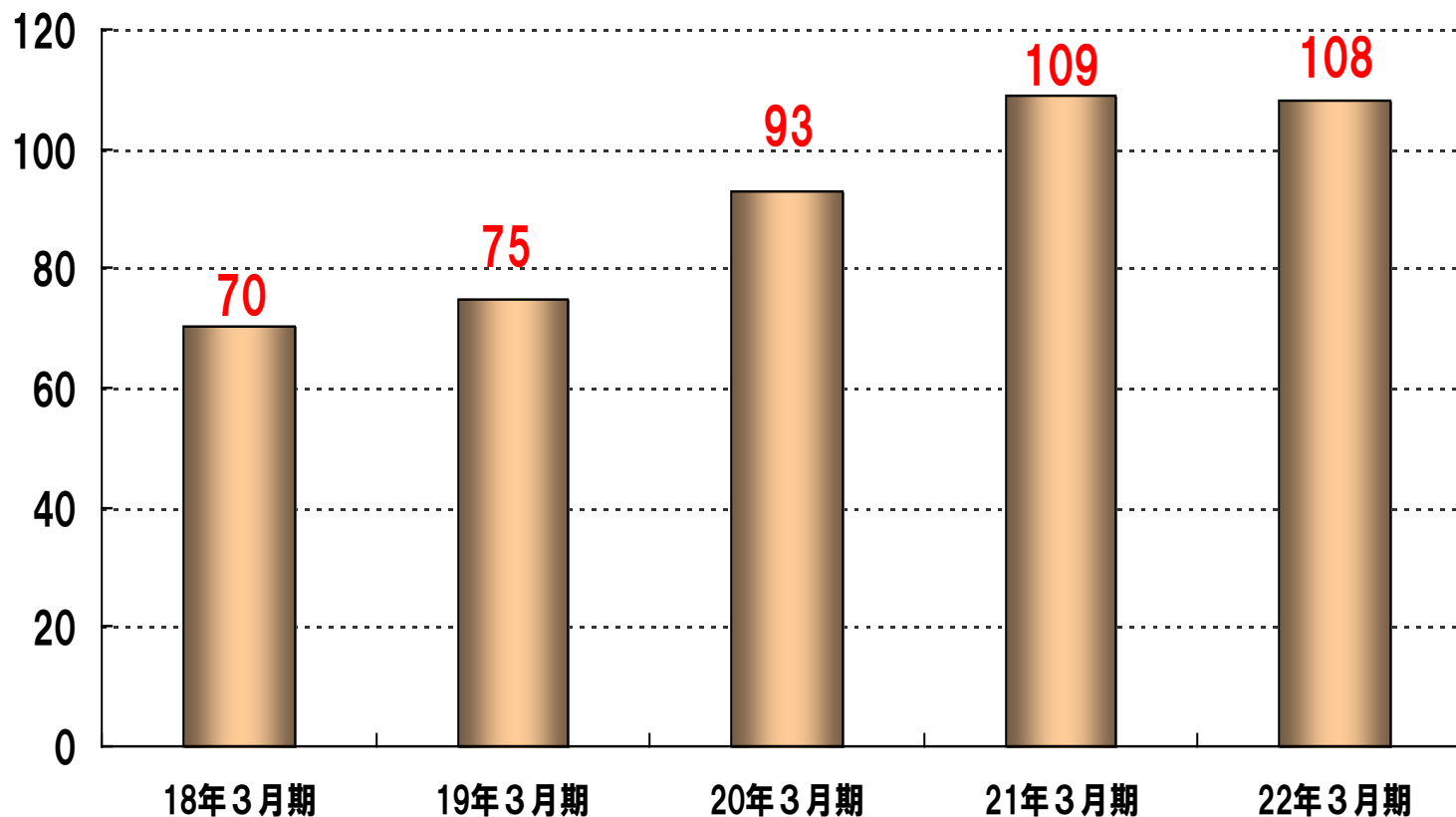
(百万円)



□環境対策	6.1	6.3	0.6	1.0	8.0
□合理化・省力化	33.3	0.1	6.6	6.1	16.0
□更新・維持・補修	30.7	42.7	7.7	8.3	21.0
■能力増強	23.0	77.0	50.2	146.3	58.0

減価償却費

(百万円)



貸借対照表

(単位：百万円)

期 別 科 目	2018年3月末	2019年3月末	2020年3月末	2021年3月末	2022年3月末
流動資産	2,554	2,049	1,787	1,889	1,626
(売掛債権)	(1,055)	(1,242)	(1,189)	(1,129)	(792)
固定資産	1,640	1,672	1,625	1,657	1,674
総 資 産	3,195	3,721	3,413	3,546	3,300
流動負債	1,220	1,696	1,436	1,337	1,111
固定負債	647	687	622	713	778
純資産	1,327	1,337	1,354	1,496	1,410
負債・純資産	3,195	3,721	3,413	3,546	3,300
(自己資本比率)	(41.5%)	(35.9%)	(39.7%)	(42.2%)	(42.8%)

キャッシュ・フロー

(単位：百万円)

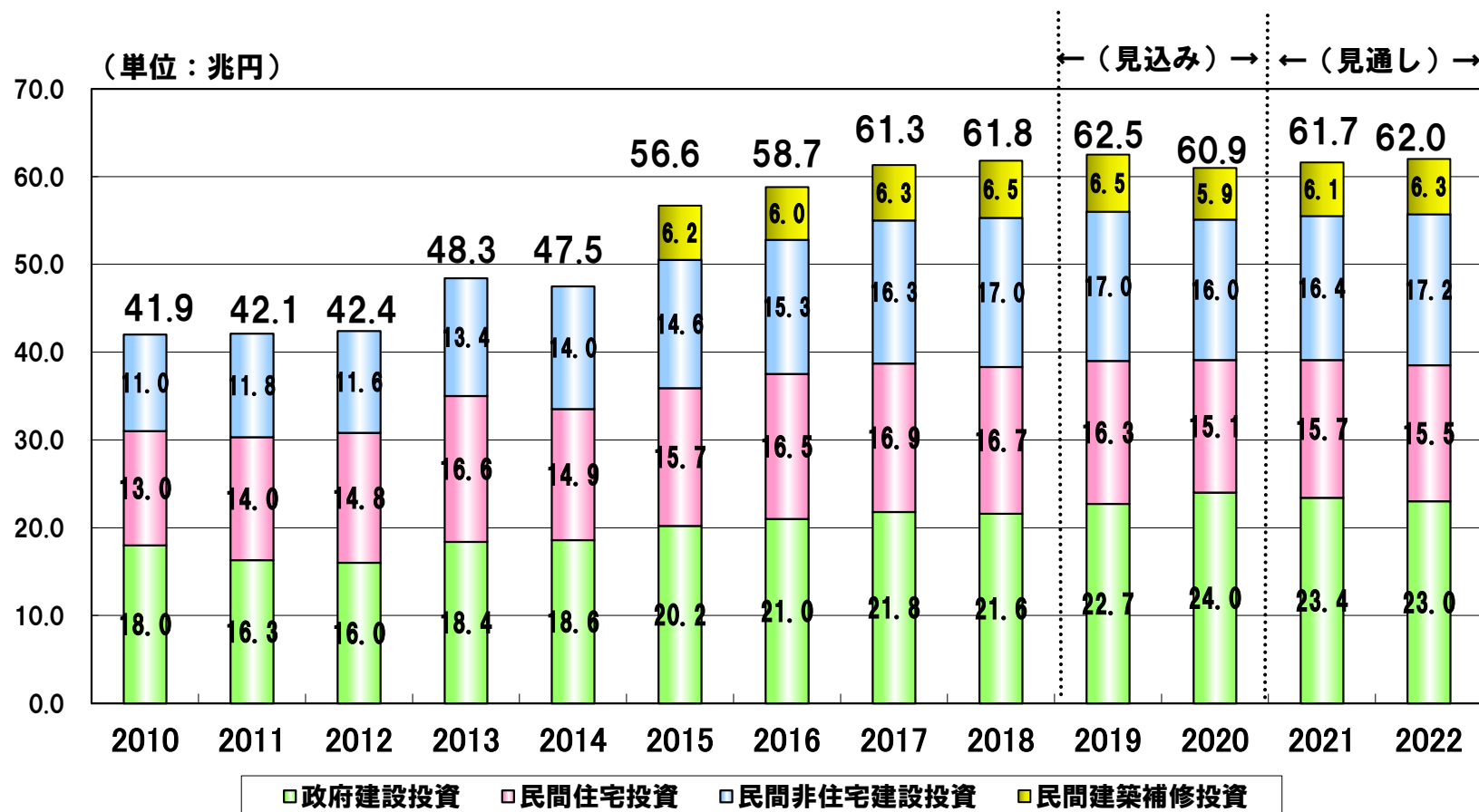
	2018年3月期	2019年3月期	2020年3月期	2021年3月期	2022年3月期
営業活動による キャッシュ・フロー	△270	390	11	210	186
投資活動による キャッシュ・フロー	△57	△37	△136	△51	△105
財務活動による キャッシュ・フロー	△29	△8	△85	△4	△13
現金及び現金同等物の 増加・減少(△)額	△357	344	△211	154	67
現金及び現金同等物の 期首残高	732	374	719	508	663
現金及び現金同等物 期末残高	374	719	508	663	730



市場動向

市場環境～建設投資（名目値）見通し

2022年度の建設投資額予測は約62兆円であり、前年度比較で0.5%増と微増ながら積極的インフラ投資は継続見込み。



参考：（財）建設経済研究所
建設経済モデルによる建設投資
2022年4月13日発表より

建設分野のトピックス

国土交通省では昨年度(2021年度)発表された「防災・減災、国土強靱化に向けた道路の5か年対策プログラム」の直轄国道76事業の見通しと共に、「防災・減災、国土強靱化のための5か年加速化対策」を基にした7つの取り組みに関する事業を公表しており、今年度は2年目となりさらに事業は加速していくものと想定される。

7つの取り組み

- ①災害に強い国土幹線道路ネットワークの構築
- ②道路の老朽化対策
- ③河川隣接構造物の流失防止対策
- ④高架区間などの浸水避難場所としての活用
- ⑤道路法面・盛土による土砂災害防止対策
- ⑥無電柱化の推進
- ⑦ITを活用した道路管理体制の強化

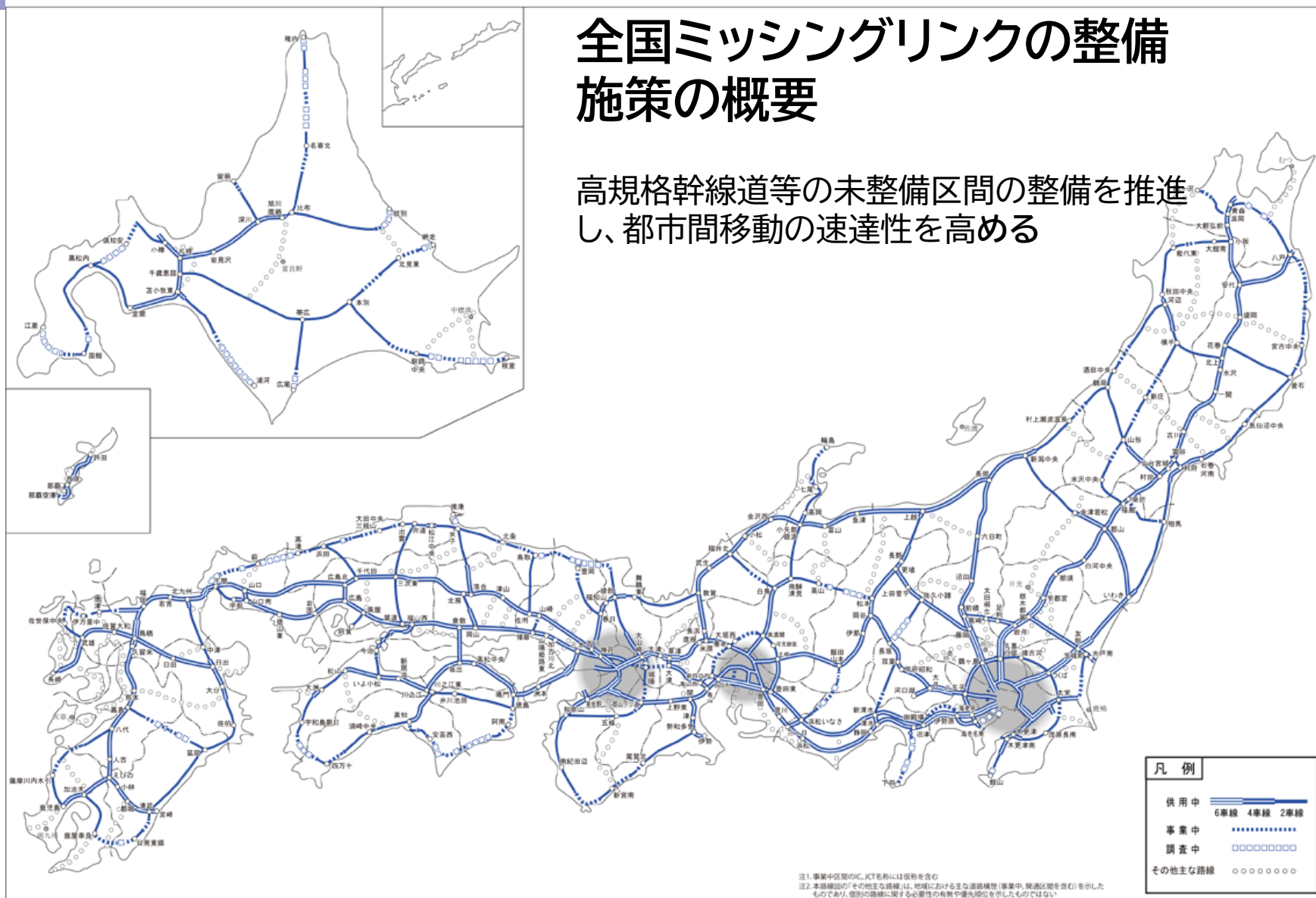
これらの施策は、当社の事業収益の柱となる工法に寄与する内容が盛り込まれており、今後中長期的な仕事量を確保する後押しとなることが期待される。

例えば、「①災害に強い国土幹線道路ネットワークの構築」については、5か年加速化対策により、高規格道路のミッシングリンク対象約200区間のうち約3割で全線または一部区間を2025年度までに開通することなどを達成目標に掲げている。

また、コロナ禍において工事計画が中止、延期、白紙化されたケースも少なくなく、今後は緩やかながら回復に転じることも予想される。

全国ミッシングリンクの整備 施策の概要

高規格幹線道等の未整備区間の整備を推進し、都市間移動の速達性を高める



平成31年4月1日時点

令和 4 年 3 月 4 日
道路局 高速道路課

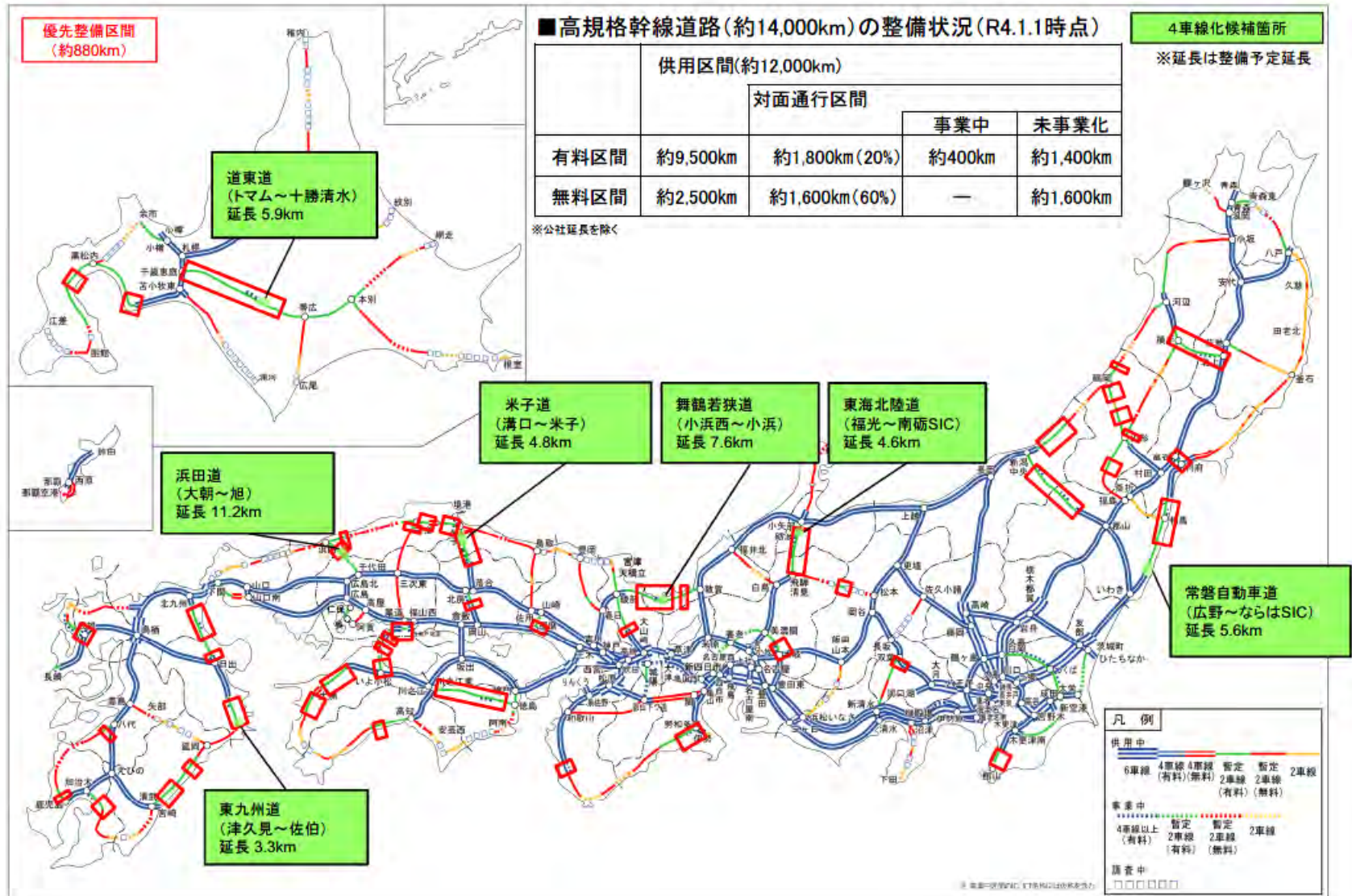
高速道路の暫定 2 車線区間の 4 車線化について

高速道路の暫定 2 車線区間については、令和元年 9 月に課題の大きい区間を優先整備区間（約 880km）として選定し、4 車線化を順次事業化しております。

昨年 11 月に閣議決定された「コロナ克服・新時代開拓のための経済対策」に基づき、防災・減災、国土強靱化の推進など安全・安心の確保のため高速道路等の整備が示されていることから、財政投融資を活用し、4 車線化を実施することとしました。

今般、来年度に新たに着手する 4 車線化の候補箇所として災害、渋滞、事故発生箇所などを総合的に勘案し、計 7 箇所約 43 キロメートルを選定しましたので、お知らせします。

4車線化候補箇所



インフラ老朽化対策も急務

建設後50年を経過する社会資本の割合

	2018年3月	2023年3月	2033年3月
道路橋 [約73万橋（橋長2m以上の橋）]	約25%	約39%	約63%
トンネル [約1万1千本]	約20%	約27%	約42%
下水道管きょ [総延長：約47万km]	約4%	約8%	約21%

北海道

道東自動車道 軽量盛土

トンネル老朽化対策

液状化対策、地盤補強

北海道新幹線

東北

東北中央自動車道 軽量盛土

トンネル老朽化対策

高速道路ミッシングリンク解消

福島沖地震（3月16日発生）の本復旧工事



関東

新東名高速道路 軽量盛土

東京都水道局 導水管、送水管整備計画

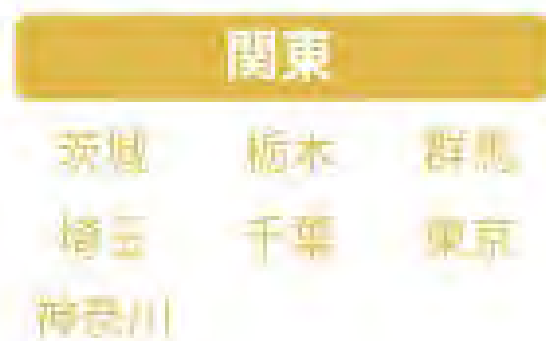
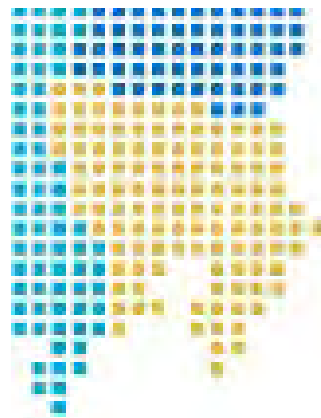
シールド工事

高速道路ミッシングリンク解消

民間プロジェクト

リニア中央新幹線関連 仮設道路、地盤改良

ライフライン整備（ガスパイプライン）など



中部

新潟

富山

石川

福井

山梨

長野

岐阜

静岡

愛知

中部

リニア中央新幹線関連 仮設道路、地盤改良

高速道路 付加車線

高速道路ミッシングリンク解消

水資源、農水関連事業（導水トンネル改修）

北陸新幹線延伸工事



近畿

新名神高速道路

大津～高槻間 HYSC工法

高速道路ミッシングリンク解消

(阪和、紀勢自動車道など)



国道バイパス関連 軽量盛土



大阪万博会場及び周辺
(インフラ整備、都市整備事業)



中国・四国

インフラ老朽化対策

高速道路ミッシングリンク解消

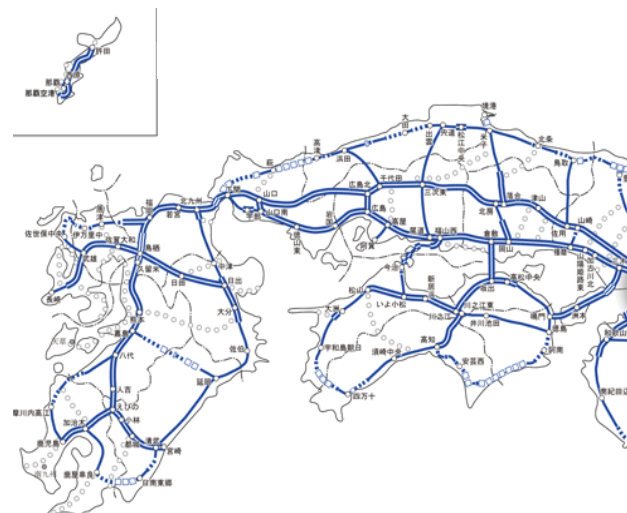
(山陰自動車道、
四国横断自動車道)

九州・沖縄

熊本震災関連

高速道路ミッシングリンク解消

(東九州自動車道)





II. 2023年3月期 業績予想

2023年3月期業績予想

(単位：百万円)

	2022年3月期 (実績)	2023年3月期 (予想)
受注高	4,134	5,300
売上高	3,594	5,200
売上総利益	603	930
販管費	676	780
営業損益	△73	150
経常損益	△65	157
当期純損益	△52	110

工事別受注高予想

(単位：百万円)

	2022年3月期 (実績)	2023年3月期 (予想)
気泡コンクリート工事	3,025	4,030
地盤改良工事	1,111	1,270
その他工事	△2	0
計	4,134	5,300

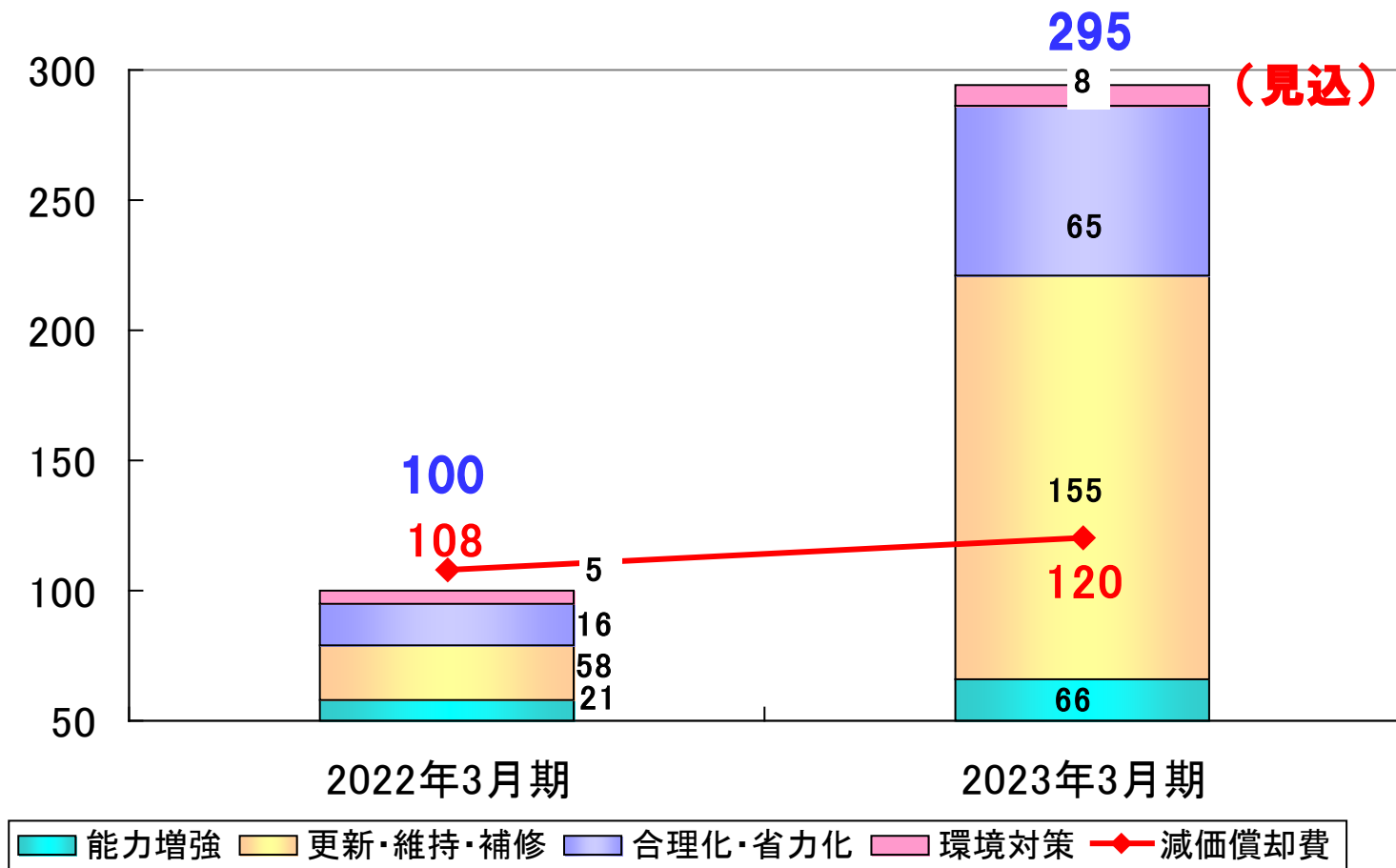
売上高予想

(単位：百万円)

	2022年3月期 (実績)	2023年3月期 (予想)
気泡コンクリート工事	2,544	3,750
地盤改良工事	1,005	1,400
その他工事	17	—
商品販売	26	50
計	3,594	5,200

設備投資と減価償却費

(百万円)





経営方針について

- 案件情報の収集力の強化

コンサルを中心とした上流営業の推進
(スペック活動の強化)

- 施工能力の向上

担い手の確保、教育・指導の強化、多能工化

- 技術開発活動の強化

「いいもの」を提供し続ける技術の深化、技術革新

- 働き方改革の推進

業務効率化の推進

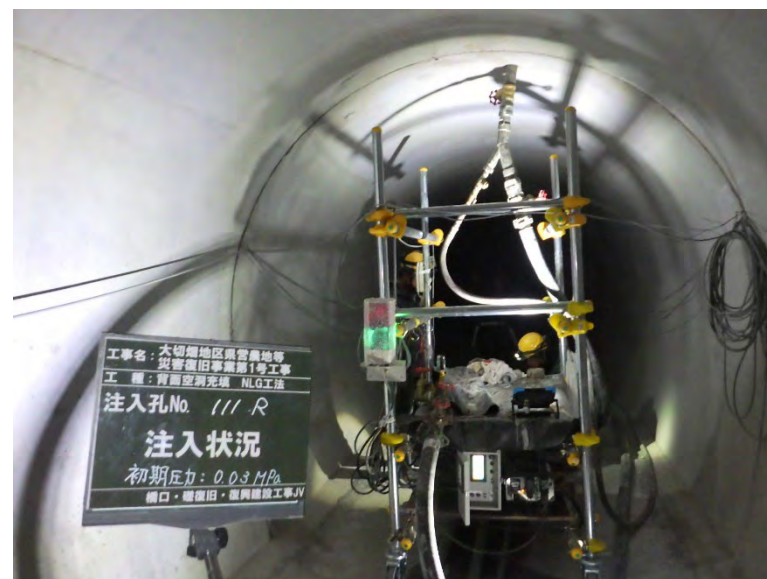
実現した開発技術 1/2

■ NLG工法 可塑性非エア系グラウト材充填工法

- 業界トップクラスの5,000mの長距離圧送が可能な空洞充填工法です。
- 可塑性の非エア系グラウト材で水中不分離性を有します。
- 今後拡大が見込まれるトンネル等インフラの補修補強市場に適した工法です。



プラント全景



裏込め注入

実現した開発技術 2/2

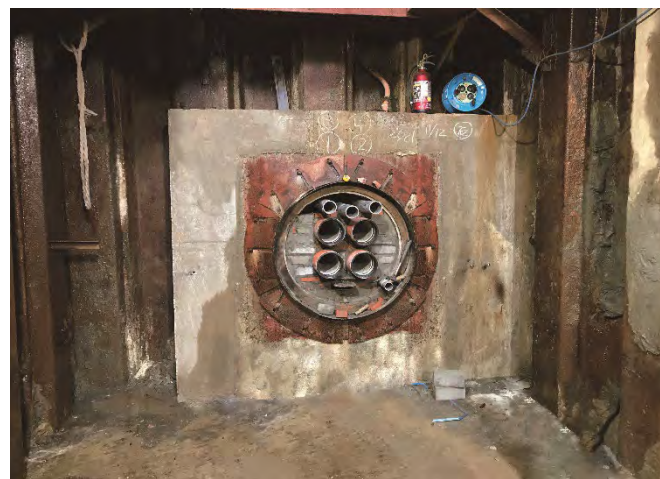
- **スィムグラウト** 耐水性エアモルタル
エアモルタルの弱みである**耐水性**を強化した「水に強い」空洞充填材です。

- **エアスラー** 高流動性エアモルタル
セルフレベリングに近い**高流動性**を有するエアモルタル。

当社の強みであるエアモルタルの新たな適用先を広げる材料として開発！！



港湾残置管理め戻し



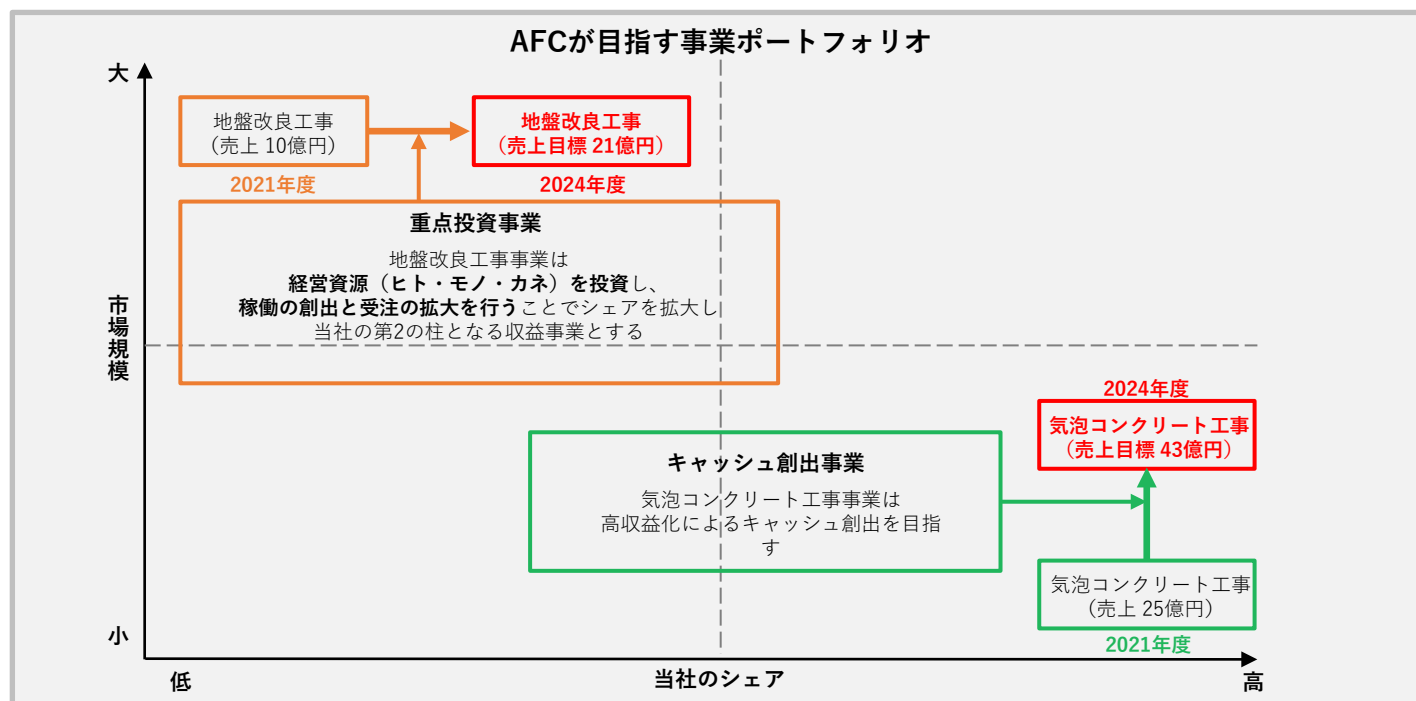
送電線の中詰め



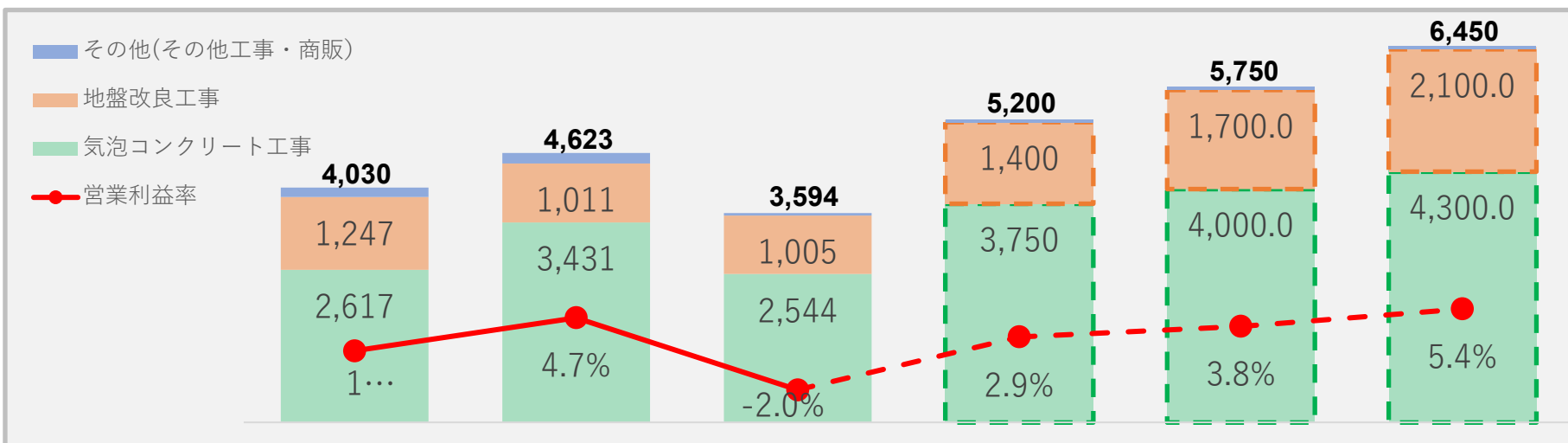
中期経営計画について

事業方針

- 規模拡大を目指す場合、市場規模が大きく売上拡大余地のある地盤改良工事業の拡大が必須となる。
- 地盤改良工事業の拡大においては、短期的には設備の購入や人員増強・教育によるシェア拡大、中長期的には外部からの経営資源の獲得による高収益化が必要である。高収益の気泡コンクリート工事業で獲得したキャッシュを地盤改良工事に投資することで、高シェア高収益の気泡コンクリート工事業に次ぐ第2の柱の確立を目指す。



数値計画



(単位:百万円)

	2019年度(実績)	2020年度(実績)	2021年度(実績)	2022年度	2023年度	2024年度
売上高	4,030	4,623	3,594	5,200	5,750	6,450
気泡コンクリート工事	2,617 (64.9%)	3,431 (74.2%)	2,544 (70.8%)	3,750 (72.1%)	4,000 (69.6%)	4,300 (66.7%)
地盤改良工事	1,247 (31.0%)	1,011 (21.9%)	1,005 (28.0%)	1,400 (26.9%)	1,700 (29.6%)	2,100 (32.6%)
その他	165 (4.1%)	181 (3.9%)	44 (1.2%)	50 (1.0%)	50 (0.8%)	50 (0.7%)
営業利益	64 (1.6%)	215 (4.7%)	-73 (-2.0%)	150 (2.9%)	220 (3.8%)	350 (5.4%)
当期純利益	39 (1.0%)	153 (3.3%)	-52 (-1.4%)	110 (2.1%)	159 (2.8%)	250 (3.9%)
ROE	3.0%	10.8%	-3.6%	7.3%	9.5%	13.0%

本資料に関するご注意

本資料に記載されている当社の現在の計画、目標等過去の事実でないものは将来の業績に関する見通しであり、これらは現在入手可能な情報に基づき作成したもので、将来の業績を保証するものではありません。実際の業績は様々な要因により、これら見通しとは大きく異なる結果になることもありえます。
